

今月の管内農業情報(田原農業改良普及課)

[2017年10月25日]

9月の農業情報

タイトル 緑肥用ソルゴの飼料化検討

とき 平成29年7月26日(水)～8月1日(火)

ところ 田原市中山町(ほ場)・西山町(肉牛農家)

主体・対象 展示農家(露地野菜1戸、肉牛農家1戸)

内容

田原市内では耕畜連携の取組として、水田から粗飼料としての稲わら収集と対価として水田への堆肥散布を行っている。しかし、稲わら収集は天候の影響を大きく受けるため、天候の影響を受けにくい収穫期間の長い粗飼料確保が求められている。

このため、乾燥粗飼料化の可能性を検討すべく今年度はソルゴ3品種を用いて、刈取り方法の違いによるほ場での乾燥状況と、粗飼料としての嗜好性を確認している。

乾燥状況について、ディスクモアで刈り倒しただけの方式とフレールモアで刈り倒しながら細断する方式(写真1)とで、ほ場に6日間放置後の違いを比較した。刈り倒しただけの方式では3品種いずれも6日後の水分は50%～60%であり、集草後のカビ発生の懸念が高く実用性は無かった。それに対し細断する方式では、3品種とも6日後の水分は10%前後と輸入乾草並みで、実用性の高さが確認された。

嗜好性について肉牛への給与(写真2)で確認したところ、刈り倒しただけのものには口を付けなかったが、細断したものは3品種とも良好で、品種による差はなかった。

農業改良普及課では、今後緑肥用ソルゴの飼料化と、耕畜連携システムの確立に向けた活動を行う予定である。



(写真1)刈り倒し状況



(写真2)給与状況